

学会活動記録（平成七年度後期）

- 「宇治拾遺物語」「曾根崎心中」について講演された。終了後、名誉会員の中皓先生・佐治圭三先生を囲み、教員・終身会員・在学生が集い、恵愛館食堂で祝賀の茶話会を催した。
- ◇二月六日（水）・九日（土） 学生委員企画による「顔見世鑑賞会」が行われ、京都南座で「双蝶々曲輪日記」「助六由縁江戸桜」などを鑑賞した。
- ◇二月一四日（木） 平成七年度学会奨学金の授与式が行われ、選考を経た九名の学生に奨学金が授与された。
- ◇二月二一日（木） 第九回月例会が開かれ、吉海直人先生が「源氏物語と私」と題して話された。
- ◇二月二二日（金） 第十回月例会が開かれ、服部匡先生が「母国語研究の方法について」と題して話された。
- ◇一月一三日（土） 学生委員企画による百人一首かるた大会が知徳館四二〇教室において行われ、上位入賞者には賞品が贈られた。
- ◇三月一〇日（日） 学会の「会報」第十八号が前号に引き続き学会設立十周年特集号として発刊された。
- ◇九月七日（木）・八日（金） 学生委員企画による研修旅行が行われ、山椒大夫ゆかりの丹後由良、鬼伝説の大江山などを巡った。
- ◇一〇月三〇日（月） 学会誌「日本語日本文学」第七号が学会設立十周年記念号として発刊された。
- ◇十一月二日（木） 第八回月例会が開かれ、吉野政治先生が「万葉集の世界」と題して話された。
- ◇十一月八日（水） 学生委員企画による「顔見世鑑賞会」が行われ、京都南座で「鎌倉三代記」「桂川連理柵」などを鑑賞した。
- ◇十二月二日（土） 日本語日本文学学会設立十周年記念講演会が知徳館二八三教室で行われた。「古典文学の世界」と題し、寺川真知夫・楠橋開・藤本徳明・廣瀬千紗子の各先生方がそれぞれ「万葉集近江荒都歌」「八代集に見るほととぎす詠」

学会活動記録（平成八年度前期）

◇四月二〇日（土） 学生委員企画による歌舞伎鑑賞会（南座主催第四回歌舞伎鑑賞教室参加）が行われた。

◇四月二四日（水） 第十一回月例会が開かれ、藤本徳明先生が「日本文学と笑い」と題して話された。

◇五月八日（水） 学生委員企画による映画鑑賞会がAⅤⅢ教室で行われた。廣瀬千紗子先生の解説で近松門左衛門原作・栗崎碧監督の「文楽會根崎心中」を鑑賞した。

◇五月二四日（金） 第十二回月例会が開かれ、大島中正先生が「外国人の誤用例から学ぶこと」と題して話された。

◇六月一日（土） 学生委員企画による文学散歩が行われ、生井知子先生の解説で、奈良高畑の志賀直哉旧宅や奈良市写真美術館などを見学した。

◇六月九日（日） 学生委員企画による文楽鑑賞会（国立文楽劇場主催第十三回文楽鑑賞教室参加）が行われた。参加者を代表して本学会員三名が舞台上で実際に人形を操った。

◇六月一〇日（月） 第十三回月例会が開かれ、寺川真知夫先生が「日本霊異記について」と題して話された。

◇六月二一日（金） 学生委員企画による狂言鑑賞会（京都市主催第一六二回市民狂言会・京都観世会館）が行われた。

◇六月二二日（土） 日本語日本文学会の第十一回総会及び記念講演会が知徳館二八三教室で行われた。京ことば研究家の木村恭造先生が「京ことばの世界」という題目で講演された。

◇七月二日（火） 第十四回月例会が開かれ、丸山敬介先生が「今日の日本語教育の課題」と題して話された。

◇七月一〇日（水） 学会の「会報」第十九号が発刊された。

人事異動

◇四月から短期大学部専任講師として生井知子先生（日本近代文学）をお迎えした。

会員著書紹介

寺川真知夫

『日本国現報善悪霊異記の研究』

和泉書院

一九九六年三月三〇日

吉海直人

『松浦宮物語』（共著）

翰林書房

一九九六年三月一日

『百人一首研究ハンドブック』

おうふう

一九九六年四月二五日

執筆者紹介

吉野政治（よしの・まさはる）

短期大学部教授

生井知子（なまい・ともこ）

短期大学部専任講師

吉海直人（よしかい・なおと）

学芸学部助教授

関根賢司（せきね・けんじ）

樟蔭女子短期大学教授

錦 仁（にしき・ひとし）

新潟大学教授

丸山敬介（まるやま・けいすけ）

学芸学部助教授

河野俊之（かわの・としゆき）

短期大学部研究助手

廣坂直子（ひろさか・なおこ）

神戸大学大学院生

（一九九四年学芸学部卒）

「同志社女子大学 日本語日本文学」投稿規定

一、当誌は同志社女子大学日本語日本文学会の機関誌として、會員に学術的研究の発表の場を提供するものです。會員の意欲的な投稿を広く募ります。

二、論文は原則として四百字詰原稿用紙で三〇―四〇枚程度、資料、翻刻等は一回の掲載を六〇枚程度とします。この範囲を超える場合は、採否を編集委員会にご二任下さい。（ワープロ使用の際は四百字詰原稿用紙に換算した枚数を末尾にお示し下さい。また図版、写真などがある場合は挿入箇所を指示したうえで、提出して下さい。）

三、注、引用の体裁は統一を図らせていただきます。特別の場合を除き、校正は再校までとし、以後は編集委員会の校正とします。原稿は返却しますが、必ずコピーをとってご提出下さい。

四、第九号締めぎり 一九九七年三月末日厳守。（原稿は日本語日本文学会事務室知徳館三二四号室宛にお送り下さい。）